

残映を編む

野原万里絵 個展

NOHARA Marie solo exhibition

昨年12月にイチノジュウニのヨンで滞在制作したドローイングを主に、色鉛筆でのアイデアスケッチや、2020年から青森県等の海岸で作家自身が収集する石を展示します。自然の移ろう風景から感じ取られる時間の蓄積や変化をモチーフに、作家がキャンパスに至るまでの思考の過程を断片的に展示します。

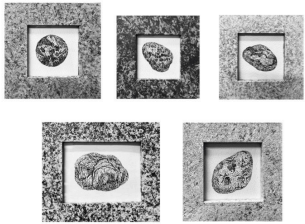
野原万里絵プロフィール

1987年大阪府生まれ。2013年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)修了。

絵を描く際の感覚的で曖昧な制作過程や思考回路への疑問から、描画道具の自作や多数のドローイング制作を経て、近年は協働制作による絵画作品も発表。

近年の主な展覧会に、個展「雑景のパターン」千鳥文化ホール(大阪)/VOCA展2022/上野の森美術館(東京)/2022年、大阪府20世紀美術コレクション展「彼我の絵鑑」/大阪府立江之子島文化芸術創造センター(enoco)/2021年、個展「埋没する形象、組み変わる景色」/青森公立大学国際芸術センター青森(ACAC)/2020年等。

■作品タイトル、素材、制作年



No.1~5
「青森の石1つ#01~05」
アクリル絵具、紙
着色した額縁
2023年



No.6
「文字以前03」
アクリル絵具、紙
2022年



No.7
「石積み刻む」
アクリル絵具、紙
2022年



No.8
「まじないか呪いか」
アクリル絵具、紙
2023年



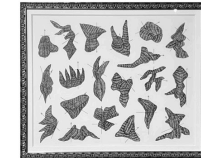
No.9
「彫刻からの描写」
アクリル絵具、紙
2022年



No.10
「石を囲む」
アクリル絵具、紙
2023年



No.11
「青森のドローイング09」
インク、紙
2021年(個人蔵)



No.12
「方角を示す形」
アクリル絵具、紙
2022年



No.13~15
「彫刻からの描写 #02,03,04」
アクリル絵具、紙 / 2022年



No.16
「夕暮れの窓」
アクリル絵具、紙
2022年



No.17
「錆びたトタン壁」
アクリル絵具、紙
2022年

No.18~20 (机の上の紙の絵)
「知覚の標本02のためのアイデアスケッチ #01,02,03」 鉛筆、色鉛筆、紙 / 2022年

No.21 (棚の上の黒い彫刻)
「黒の立体-計測のドローイングより-」 アクリル絵具、スタイロフォーム / 2020年

~展示されている石について~ 青森県内の海岸、京都府京丹後の海岸、高知県の桂浜などで収集した石やタイトル。